

# 風土記の丘の花だより<sup>218</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2024年1月13日)

年が明けて、早いもので「えべっさん」も過ぎました。2週間あきましたが、咲いている花にそれほど変化はありません。冬は草木にとって、じっと耐えて春を待つ季節、花を咲かせているような場合ではないのでしょうか。でも、ちょっとは咲いているので、それを紹介しましょう。



冬を代表する庭木、ロウバイです。上は小早川家の庭、下は大駐車場のトイレの近くで撮りました。どちらもロウバイですが、上がロウバイ、下がソシンロウバイです。以下、牧野図鑑より引用します。表記は「らふばい」となっています。「本品は後水尾天皇ノ朝ニ始メテ朝鮮ヨリ来レル支那原産ノ落葉灌木ニテ鑑賞花木トシテ通常人家ニ栽植セラレ・・・」中程は省略して、「花全體黄色ノ者ヲそしんらふばい即ち漢名素心蠟梅ト云フ」これによると、ずいぶん昔、1600年代に大陸から渡来したことが分かります。香りが良いので人々に好まれ、庭木として珍重されたのでしょう。人はきれいな花には、植物学的な分類とは関係なく、「梅」の名前を付けました。ロウバイは花びらがまるで蠟(ろう)細工のようなので、こんな名前になったのでしょう。オウバイとか、キンシバイとかそんな名前の花は少なくありません。私の感想では、ロウバイの方が少なく、ほとんどがソシンロウバイのように思います。ちなみに拙宅のロウバイもソシンロウバイです。

今年もまた慌て者のシキミの花が咲いています。万葉植物園の入り口から少し行った左側に何本かのシキミが植えられていますが、その右から2番目が毎年早く花を咲かせます。サクラが咲く頃に咲く花なのに、なんと早いことでしょう。シキミと言えば葬式のイメージがありますが、花はこんなに可憐です。実も面白い形をしています。でも、縁起を担いでのことか、どなたも庭には植えませんね。別に植えてもいいと思いますがねえ。

品種名は知りませんが、全体が真っ白なスイセンは昨年から咲いていますが、このニホンズイセンも咲き始めました。園芸品種には余り興味がない私には、スイセンといえば、この花を思い浮かべます。スイセンの名は中国での表記「水仙」をそのまま日本語読みしたもので、その水仙とは水に住む仙人のことだそうです。また、ギリシャ神話にもスイセンの学名にちなむナルシスの物語が残されています。何かと逸話の多い花ですね。松下